

## 取引のために保証金を 差し入れた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**新人さん：**購買部から、新規取引先になる A 社に保証金を支払うことになったから振込みの手配をしてほしいと連絡があったのですが、取引するのにお金を支払うんですか？

**先輩：**うん。A 社とはまだ取引実績がないから、万が一支払いが滞った場合に備えるためだよ。

**新人さん：**そうなのですか。取引するにも目に見えないコストがかかるのですね。

**先輩：**いや、コストではないよ。保証金は、担保として資金を預けているわけだから。

扱われます。

不動産の賃貸借の場合、差し入れた金銭を保証金ではなく、敷金と呼ぶこともあります。保証金にしても敷金にしても、担保として差し入れたことには変わりはないので、通常、どちらも「差入保証金」の勘定科目を使用します。

「差入保証金」は、契約の終了や解除により返還されますので、償却はしません。しかし、不動産の賃貸借契約などによっては、契約が終了した場合、「差入保証金」の一定割合について、その部分を返還しない旨を規定する条項（償却条項）がついていることがあります。

この場合、返還されない部分は「差入保証金」に該当せず、不動産などを賃借するために支払った権利金等として、会計上は「長期前払費用」などで処理します。なお、計上された「長期前払費用」は、賃借期間にわたって償却します。



### ●解説

「差入保証金」とは、取引等のための契約に際して、債務者が債権者に負う債務の履行を担保することを目的として差し入れる保証金を処理する勘定科目です。なお、預かる側では「預り保証金」の勘定科目として取り

### ケース 1

#### 営業等の保証金の場合

・ **契約時：**取引開始にあたり、営業保証金1,000,000円を当座預金口座より差し入れた。

【借方】 差入保証金 1,000,000      【貸方】 当座預金 1,000,000

・ **契約終了時：**契約期間満了となり、営業保証金が当座預金口座に返還された。

【借方】 当座預金 1,000,000      【貸方】 差入保証金 1,000,000

### ケース 2

#### 敷金などの場合

・ **契約時：**事務所の賃借にあたり、敷金2,000,000円を普通預金口座から差し入れた。なお、契約上、敷金の10%相当額は返還されないこととなっている。

【借方】 差入保証金 1,800,000      【貸方】 普通預金 2,000,000  
長期前払費用 200,000

・ **決算時：**長期前払費用100,000円を償却した。

【借方】 長期前払費用償却 100,000      【貸方】 長期前払費用 100,000